

深日漁港干潟の「大阪湾生き物一斉調査」の概要

- 日 時 平成 30 年 5 月 26 日（土） 11:00～14:00
- 場 所 深日漁港干潟（大阪府泉南郡岬町深日）
- 主 催 大阪湾生き物一斉調査実行委員会
（事務局：国土交通省近畿地方整備局神戸港湾空港技術調査事務所）
- 調査団体 岬町立岬中学校科学部
- 観察指導 山西良平（西宮市貝類館顧問）
- 協 力 CIFER・コア
- 参加者数 18 名

西宮市貝類館顧問の山西良平先生の指導を受け、岬中学校科学部員・部顧問の先生(15 名)とともに CIFER・コア関係者(3 名)も調査に参加した。

この結果は他地点の結果と合わせて、今後、大阪湾生き物一斉調査の情報公開サイト（大阪湾環境データベース）で公表されます。



▲ 干潟の生物について生徒たちに解説する山西先生



▲ 干潟での観察後、採取した生き物の同定を行った。

○状 況

◆朝の天気予報では最高気温 29℃でしたが、干潟調査中は曇り空だったので助かった。

中学校から干潟に向かうと、歌碑の付近でウグイスが清々しい一鳴きでお出迎えです。

◆深日漁港干潟は干潮でウミニナが足の踏み場もないほど露出している。山西先生の「このウミニナは干潟底泥表面の微生物を食べて掃除を行っている。」という解説を聞きながら、干潟の周囲を 1 時間ほどかけて歩き、大まかな生物チェックを行ったうえ、グループに分かれて貝、カニ、海藻等を更に調査した。

足元のウミニナに何種類か外観の違うものがあったので、これはイボウミニナやホソウミニナが含まれているに違いないと、砂の上に数個を並べて先生に見ていただくと、「これは全てウミニナで、色や模様の違いは個体差ですね。」と言われ、ガッカリ。

◆水際より上では、今回はハマダイコンの開花は少なく実の入ったサヤになっているものが多く、ハマボスは今が盛りと小さな白い花をたくさんつけ、ハマウドは大きく開花しているものもあり、さらにハマヒルガオが 10 輪ほどの花をつけていた。外来種のナルトサワギクは小さな黄色い菊に似た花をつけて散在、今後広がるのでしょうか。

◆淡水が流入する干潟東北端の水たまりには、誰かが放したミドリガメ（アカミミガメ）が体長 30cm 近くに成長し潜んでいた。

◆干潟での観察後、採取した生物は中学校の理科室に持ち帰り、山西先生手描きのカニ・貝の図（約 30 点）、図鑑等で調べたり、さらには山西先生に直接お聞きしながら同定した。海水、淡水が出会う深日干潟には広さの割に多様な生物が棲みついていることが確認された。



ハマサジ



ハマボス



ハマダイコン



ハクセンシオマネキ



ケガキ



クチバガイ